

栄光

説教

『生きている者の神』

マルコによる福音書12章18節～27節

聖学院幼稚園・小学校チャプレン 中村謙一

説教・「生きている者の神」 中村謙一教師…1
特集・節目の時を 迎えて……………2
追悼・林小百合姉…5
西南支区総会報告 ……………5
説教・「キリストは 復活された」 岸俊彦牧師…6
青年会 修養会報告…7
長老のファイル…7
牧師の書齋から…8

「復活はないと言っているサド

カイ派の人々が、イエスのところへ来て尋ねた」という18節を読め

ば、私たちはサドカイ派の人々の悪意を感じざるを得ないでありま

しょう。サドカイ派の人々は、祭司たちと相談して主イエスを言い

こめ論破しその教えを傷つけようとした。復活の時に、その

女（未亡人）は誰の妻になるでしょうか？ 7人の兄弟全員がその

女を妻にしたのです」と23節がこのフアリサイ派の人々は主イエスに質問しました。

25節で主イエスは「死者の中から復活するときには、めとることも嫁ぐこともなく、天の御使いの

ようになるのだ」と告げました。

「あなたたちは聖書も神の力も知らないから、そんな思い違いをし

ているのではないか」。これは主

イエスからの痛烈なサドカイ派たちへの、祭司たちへの批判であり

ました。主イエスは、まず、「死者の中から復活するときには」と

言われて、まず復活はあると宣言されました。

実は、主イエス御自身が私たち人間を復活させます。主イエスは

ヨハネ5・21で次のように告げています。「すなわち、父が死者を

復活させて命をお与えになるように、子も、与えたいと思う者に命

を与える」。これは、主イエスご自身が神の御子として、主イエスを

信じる私たち人間を復活させることがおできになる、父なる神様

と同じ神の力を主イエスが行使される

ことが宣言されています。復活に与かる者は、「めとるこ

も嫁ぐこともなく、天の御使いの

ようになるのだ」と主イエスは宣言され約束されました。主イエスを

信じ、死後復活に与かる者は、神の御国で地上のしがらみから解放

され、天の御使いのようになるのです。さらに、もっと驚くべき

ことを主イエスは26節と27節で告げています。それは、死者が復活

することについてであります。そのテーマを説明するのに主イエスが引用されたテキストは何とサド

カイ派が愛してやまないモーセ五書の出エジプト記3章6節でした。

「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、

ヤコブの神である」。これは燃える柴の中から主なる神様がモーセ

に語りかけ召命を与えられた「柴」の箇所でした。主イエスは「神は

死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。あなたたちは大

変な思い違いをしている」と告げました。これは、神の民イスラエ

ルの先祖であるアブラハム、イサク、ヤコブが今も天で復活して「生

きている者」である、ということ

が主イエスによって告げられています。何と、主イエスは彼らを「生

きている者」、「復活して天で神を

礼拝する者」としてここで宣言されました。天を知るお方、主イエ

スが、アブラハム、イサク、ヤコブは復活して生きている、と告げて

います。彼らは死んで終わりはなかったのです。

主イエスは、復活はあるという

メッセージを私たちの魂に語りかけます。主イエスご自身が、今では

生きています。神の神なのです！そして主イエスは父なる神様の御

心にお従いして、主イエスを信じる者を天で復活させています。い

つ復活させるのかも、終末の日か、死後すぐなのかは、主イエス

ご自身に任されている、と私は考えています。私たちは、復活の希望

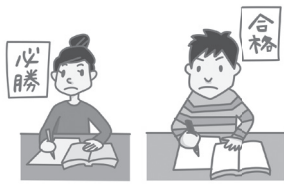
と信仰を持って歩んで参りましょう。この復活の恵みに教会を

からせるために、主イエスはあの十字架の苦しみの死によって、す

べての人の罪を赦し贖い、天にある神の御国への道を開いてくださ

いました。私たちは教会生活から天へ移されます。人間は死んで終

わりではありません。主イエスを信じ洗礼を受けて、神様に向かつて生きる者とされま



節目の時を迎えて

経堂北教会では、来年4月に主任牧師の交代という大きな節目を迎えます。

人生のなかで、進学や就職、結婚など様々な節目がありますが

皆さんの大きな節目となったことは何ですか。



ただくなど、我が家の歴史をすべ

87年になる教会の歴史の中、3人の牧師のお働きにより、戦争中もコロナ禍も毎日曜日に礼拝が休みなく続けられたことに感謝いたします。

第1回の礼拝は、初代村田正亮牧師のご自宅で行われました。偶然、隣に居を構えた両親でしたが、クリスチャンホームで育った母にとってどんなにうれしかったか、よく話しておりました。その頃は高台にある教会から麦畑の向こうに小田急線が見えるほどのんびりした田舎でした。村田牧師は、道でお会いしてもニコニコ笑って近づき「やあ」と言っ肩をたたいてくださいました。

四竈揚牧師は、ご子息の純雄さんと長男が同世代でしたので、お隣の牧師館へ屋根伝いに行き来して遊び、先生に注意されたり、主人と私の両親4人の葬儀をしてい

岡田みな子

お恵みを次へつなげて

松谷祐二牧師をお迎えするまであと1年です。今回初めて2人体制を経ない交代となりますが、これも神様のお計らいと思いい、節目の時を皆様と共に希望を持って歩ませていただきます。

私は日曜学校では多くの先生にお世話になり、家のカーテンをま

てご存知でした。岸俊彦牧師はお忙しい中、何人もの伝道師を迎え、送り出し、皆様が全国で大切なお働きをされている様子に、世間知らずの私は目が開かれた思いがします。また、それぞれ

の伝道師を迎え、送り出し、皆様が全国で大切なお働きをされている様子に、世間知らずの私は目が開かれた思いがします。また、それぞれ

結婚

岡山いち

77年の人生で一番の節目になったのは結婚でした。大学を卒業し、当分は花嫁修業をして過ごすと思っていた矢先の4月、世話好きの知り合いが強引に見合い話を持ち込んできたのです。まだ若かったので全く結婚する気持は無かったのですが、義理でお見合をする事になってしまいました。しかも会ったのが夜の8時。小説などでは出逢った2人はそのままデートに出かけるのが決まりだと思っていたのにそんな夜に逢った後、どこへ行くつもりかと不満いっぱい出かけました。が、目の前に現われた男性はすてきな人でした。小一時間程話をしてその夜は別れましたが、あの方ともっと話をしてみたい、また会いたいという気持がみるみるふくれ上がってきました。そして翌日ゆつくりと会う機会が与えられ、今まで感じたことのない満たされた気

持になりました。当時彼は兵庫県西宮の社員寮に住んでいましたので、電話も呼出しで話をするのもままならず、自宅には固定電話が1台あるだけでしたので、交流手段は手紙でした。「私はこういう人間です」ということを何とか判って欲しくて、下手な文章でも一生懸命書きました。彼からは時折しか返事は来ませんでした。それで充分でした。私を理解して欲しかっただけでしたから。

夏が訪れる頃、まだ3回しか会っていない彼からプロポーズを受け、秋に式を挙げました。尼ヶ崎市の小さな社宅に所帯を持ち、天にも昇る幸せの絶頂期、彼は真剣な顔で言いました。「貴女が僕の色に染まるまで実家の十時家には帰しません」と。私を判って欲しい一心で書いた手紙には、いかに私が親離れが出来ていない女性であるのかを書いていたのでした。それでも健気な私は今までの色を捨て、彼の色に早く染まらなくてとは必死に頑張りました。東京から遠く離れた誰も知り合もない関西の地でスタートした新生活、23才で経験した節目でした。

人生の終わりに向かって

元 桜岡

「節目の年」と言われて焦りと共に軽い恐怖を感じる。男性の平均寿命は81歳、今年で私は80歳になり天国は目の前だ。

私の父は生前、自己採点で「私の人生は60点」と言っていた。私の兄弟は5人で、受洗していたのは長男、次男、長女の3人であった。三男と、四男の私は反抗期を過ぎて必死に父親の圧力に耐えて受洗を拒んでいた。父は最後の手段としてお嫁さんに後を託すしかない。「結婚相手はクリスチャン」と条件を付けた。私は父への抵抗むなしく結婚後受洗、そして2年後、80点で父は天国へ行った。その8年後三男の兄が病床受洗をして父の目標である全員受洗が達成された。

父の年齢を超えてしまった私の人生は何点だろうか？ 現在のところ0点。その原因は常に神様を仰ぎ見る家庭ではなかった。日曜

日だけ教会に行き、それで全てのような生活であった。反面教師にはなれても子どもへの信仰の継承など語る資格もない。子どもへ信仰を伝えるなら神様と向き合っている姿を子どもに見せていかなければ、と思っていたが、そのような姿を見せる努力もせずに今日に及んでしまった。この期に及んで私の考えに誤りがあったと思いはじめた。自分が教師になり自分の姿を子どもに示さなければと思ったところに間違えがあったのではないか。教師になった姿を子どもに示すのではなく教師にならない姿を示し、子どもと共にならなければ良いのかを考えるべきではなかったかと、天国へのゴールを目の前にして反省している。

あと僅かな時間に何が出来るのか、その唯一の方法は神様にお願ひするしかない。父も四男は神様に託して天国へ行った。私も神様に託してお願ひするしかない。

私が受けた教育は「努力をすれば出来る、為せば成る」というものだった。私には努力をしても出来無いことばかり。それを知ることが信仰の原点ではないのか。

み言葉に聞いて

綱川めぐみ

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたに求めておられることである」(1テサロニケ5・16~18)

口語訳で子どもの頃に暗唱した聖句、その中でこれが一番思い出す聖句です。そうしたいけれど難しい、出来るかどうかで信仰が試されているかのような自分を反省させる言葉でもあります。

節目と言えばなんとなく希望を感じ、感じる明るい言葉に聞こえますが、自分を振り返るなら、思いがけずにやってきた環境の変化がそれだったのかなと思います。2010年に夫が突然病気で倒れて、後遺症で仕事を続けられなくなったのが一番の衝撃的な出来事でした。大変でした。そして父の病氣、母の認知症とあった中で悩んだり落ち込んだりした時は、ふと自分の

中から色んな聖句が湧いてきて神様に聞く時間を与えられました。時代に左右されない不変の指標があることは恵みです。はっきり思い出せず、何だっけとネットで聖句検索することもあります。

母の介護が終わって新たな節目を迎えたいと思います。娘2人は社会人になりました。夫も以前のようにはいきませんが、なんとか仕事をしています。私の人生の主役が自分に戻ってきた感覚です。一定の役目を終えて、これからの人生をどう生きようかとずっと考えていますが、はつきりとした答えは出ていません。いざ時間を全て自由に使えるとなるとプレッシャーを感じます。何かしなきゃと思うけれど、集中力、気力、記憶力などがかつてのようには行かず、思ったほど動けません。色々と少しずつ活動はしていますが、何が出来るか探りながらです。

この先も色々あると思っています。自分もいつまでも元氣とは限りません。世界情勢もとても気になっていきます。何があったとしても、み言葉に聞き、神に喜ばれる者でありたいと願っています。

別れ そして 出会い

圓山芳則

「旅立ちの日に」

白い光の中に

山並みは萌えて

遙かな空の果てまでも

君は飛び立つ

(詞：小嶋登 曲：坂本浩美)

静かな前奏から「白い光の中に」と歌い出すとき、毎回、ゾクツとします。40歳より若い方の卒業ソング第1位だそうです。もう、かれこれ30年。毎年、卒業式には歌い、時には教えてきた、思いのこもった歌になりました。今年もこの歌と共に、93名の6年生が卒業していきました。

小学校の仕事は、3月に別れがあり、そして、2週間後には出会いがあるということの繰り返しです。12歳の子どもにとつては、半数は一緒に公立の中学校に進学するとは言え、初めての別れであり、出会いであり、大きな緊張の中で

過ごす春休みになります。

そうした子どもたちに、僕は卒業式後の最後の授業で、冷たいようですが、振り向かず前を見て進むように話します。

過ぎた日々は尊いけれども、今日が一番素敵な日。そして、明日はもっと素晴らしい日。時には、過去の思い出に浸ることもいいけれど、いつも前を向いて進みたい。そうは言っても、なかなか思うようにはいきませんが、「主は何をお望みだろうか」と問いつつ、上を向いて進みたいと願っています。

最後の言葉は、「聖フランチェスコの平和の祈り」と「讚美歌463番」。

ささやかなる しずくすら
流れゆけば 海となる
徒に過ごす 束の間も
我が命の 一節なり
かりそめなる 過ちも
亡びにいる 門ぞかし

心にしみるこの歌を最後に教え、別れます。

経堂北教会も節目の年。前を向き、上を向いて共に進みましょう。

追悼

母の思い出

故・
林 小百合姉

実家に残る母の昔の写真を見ると、ひとりっ子のお嬢様というイメージですが、玉川学園小学部の時、学園の山を駆け回っていたとのこと。おしゃべりで、社交的。私と弟、男2人兄弟をボーイスカウトに入隊させ、学習塾へ通わせ、教育熱心。私の音楽の作曲の宿題をオルガンで作ってくれたのを覚えていません。

私は就職後、海外工事や単身赴任ばかりで、弟と実家の土地に三世帯住宅を建てても母と会う機会が減りました。

私と弟の結婚で、娘が2人出来るのを喜んでいました。

父を介護し看取った後、数年で認知症が進み、施設に入居させました。唯、足腰は強く、よく喋り、見掛けはそうとは思えない様子でした。徐々に要介護度が進みまし

たが、面会で私や弟の顔を見ると「今日はどうしたの、忙しいのすまないね」と声をかけてくれました。段々と言葉少なになりましたが、私の妻を連れて行くと女同士でよくおしゃべりをしていました。

昨年の大晦日、施設から誤嚥性肺炎で救急搬送されました。入院の翌週から意識もすっかりとじてきました。精密検査で大腸癌が見つかりました。年齢を考え、積極的な治療は止め、最後まで看取ってくださいる病院を探しました。面会の時は、孫たちの写真や呼びかけにうなずいたり、微笑かに笑顔を示したり、眼差しには何か力を感じておりましたが。転院先を決めた翌々日の未明に、病院から危篤状態の連絡があり、駆け付けたところ、すでに意識はなく、数時間後に天に召されました。寝たきりの療養期間がさほど長くなかったのが救いと思います。短い期間ではありましたが、救急搬送から転院先の手配、最後の看取りと傍に居てやれ、この不肖の息子に最後の親孝行の機会が与えられたことを感謝いたしております。

(林 理)

西南支区総会報告

3月10日の主日礼拝後、第85回日本基督教団東京教区西南支区定期総会に岸牧師と常任委員である大友太郎長老と信徒議員である石室裕一が出席しました。会場は渋谷区の聖ヶ丘教会です。

教団の教会との横の繋がりは重要なものです。年明けの地震においても、中部教区の繋がりが被災教会や信徒をどれだけ力づけたかわかりません。大切な繋がりの場に経堂北教会の代表として出席することに多少緊張してしまいました。大友兄の落ち着いた空気に助けられました。

コロナ禍を経て、教団全ての教区で信徒数が減ったことが伝えられました。信徒数を増やしていくということがどんなに困難なことか、伝道の前線ともいえる教会学校に携わる者としては身に染みて実感するところです。コロナ明けともいえる来年度、私たちの小さな一歩一歩がこの先の教団を作っていくのです。

種房正勝先生が西南支区の牧師

に新しく加わり、嬉しかったです。経堂北教会の次期牧師となる松谷祐二先生とも総会後の茶話会でお話しし、当教会の『栄光』や記念誌を既に見込んでおられるのか、私の教会歴までご存じで、恐縮してしまいました。

謝恩日献金（隠退教師退職金のため）の説明に立たれた信徒の方を見ながら、ありし日の有賀四郎兄もこうして説明をされていたかと懐かしく拝聴しました。

岸先生が質疑応答に立っておられる姿はやはり大きな貫禄と存在感で、先生のこれまでの教団での長い歩みを思いました。帰り際には多くの人に囲まれて、笑顔でいつもの毒舌を飛ばしておられました。

(石室裕一)



聖ヶ丘教会

説教

『キリストは復活された』

ルカによる福音書24章1節～12節

岸 俊彦

ガリラヤから従って来た女性たちは、理不尽にも十字架に磔になったキリストをただ遠くから見守るほかありませんでした。日曜の朝、その埋め合わせをするかのように、キリストを葬ろうと香料を持って墓へと急ぎました。

墓穴を塞いでいたはずの石が脇に転がされていました。墓は空っぽでした。彼女たちはキリストの体を見つげようとしたが、見つけることができませんでした。

途方に暮れている彼女たちの前に、輝く衣を着た二人の人が現れ、言いました。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか」(5節)。この時、彼女たちの一番の願いは何でしょう。あの十字架に磔になって埋葬されたキリストが、今も生きて働いてくださることではないでしょうか。それにもかかわらず、彼女たちが捜しているのは、死んでしまったキリスト

です。なぜ、復活されたキリストを捜そうとしないのでしょうか。死んだらおしまいと諦めていたからでしょうか。

二人は彼女たちに告げました。「あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられた頃、お話しになったことを思い出さない」(6節)。

キリストが生きておられることを信じることは、目の前に主が現れてくださるからではありません。主の御言葉を思い出すことです。御言葉に聞いてこそ、キリストが死者の中から復活され、今も生きて働いてくださることが信じられるのです。そして今も御言葉を語ってくださいます。

今はスマホの時代です。思い出のために写真を次々と撮ります。懐かしい家族の写真で、いつでも思い出すことができますでしょう。それ以上に、思い出と共に愛する

家族の言葉が、生き生きと私たちに甦るのではないのでしょうか。亡くなった方の遺品を整理して、写真も懐かしいものですが、故人のメモを見つめます。メモ書きされた言葉によって、故人が今も生きてるように語りかけるように思えるのです。

聖書はくりかえし、私たちに「神のご計画と必然を見よ」と語りかけます。見るためには、しっかりと御言葉を思い出し、御言葉に聞くことです。御言葉こそが、キリストが死者の中から復活され、生きて働いてくださり、今も語りかけてくださっていることを証します。

「人の子は、必ず罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか」(新共同訳・7節)。これまでキリストが弟子たちに向かって三度語られたことを、二人は彼女たちに改めて告げました。彼女たちが忘れていたからです。聞いているようで聞いていないのが私たちです。聞いても理解しないのです。

「三日目に復活することになっ

ている」。ルカが神の国の福音を伝えるときのキーワードです。「～することになっている」とは、ギリシャ語の「デイ」という言葉です。神の御計画と必然を意味します。キリストが復活されるのは、神の御計画と必然です。その目的は、罪人の救いのためです。罪人とは、ユダヤ教の指導者や、ピラト、キリストを十字架に磔にした者たち、裏切った弟子たちだけのことではありません。

御言葉を忘れたり、誤解したり、拒んだりする私たち誰もが罪人です。「生きておられる方を死者の中に捜し」、キリストのことを戯言と思い、空っぽの墓を怪訝に思う罪人である私たちのことです。

御言葉とは不思議なものです。わからなくとも聞き続けていれば、たとえ誤解していても、無理解であっても、御声に聞き続けていれば、その言葉にかならずピンとくる時があります。

彼女たちの言葉を聞いたペトロは、立ち上がって(復活して)墓へ走り出しました。ペトロは、主の第一の使徒として新たな一歩を踏み出しました。(墓前礼拝)

青年会修養会報告

2月11日から2泊3日で、青年会修養会を行いました。行き先は、千葉・九十九里方面としました。2022年度まで経堂北教会に在籍していた、菊地信行伝道師(当時神学生)のおられる西千葉教会を訪ねるためです。修養会には、大学生4名、社会人3名、乳児1名の計8名が参加しました。

経堂北教会で主日礼拝を守ったのち、岸先生の開会祈禱に送り出され、西千葉教会に向かいました。素敵な煉瓦造りの西千葉教会では、菊地伝道師と先方の青年3名が迎えてくださいました。互いの年齢が近いこともあり、レクリエーションや夕食で和気藹々と楽しく交流しました。その後、菊地伝道師の説教による夕礼拝に与りました。千葉支区最大級の教会とあって、忙しい日々を送る菊地伝道師ですが、2年目は少し余裕が出てきたそうです。説教箇所はアモス書でした。平易な言葉による優しい口調は以前のままでしたが、言葉に重みと自信が感じられました。礼拝後、今後も青年会の交流

を続けたい旨と、今秋の正教師試験に向けたエールを菊地伝道師に伝えて別れ、宿のある九十九里に入りました。

2、3日目は一転して、遊び中心のプログラムでした。地魚の海鮮丼を食べ、ゴーカート体験やバーベキューをしました。ただ、行程が全て順調だったわけではありません。ある者は海辺の岩場の隙間にスマホを落として失くしかけたり(仲間たちの協力により無事救出)、別の者はスマホ捜索で潮風に当たりすぎて体調を崩したり：(大事には至りませんでした)。その都度、仲間のために祈ったり、愛のある突っ込みを入れたり、互いの人となりを知り、神様の恵みのうちに親睦を深めることができました。

(原良介)

長老のファイル

2月4日の臨時教会総会で、岸俊彦牧師の新年度末での辞任と松谷祐二牧師を主任担任教師として招聘することが承認されたのを受け、2月25日に沢田寛子長老と、

現在松谷牧師が奉職されている麻布南部教会の礼拝に出席しました。礼拝後、前に出て、松谷牧師の招聘が経堂北教会総会で承認されたご報告とご挨拶をいたしました。3月3日、麻布南部教会総会でも無事松谷牧師の辞任が承認され、これをもって両教会間において正式に主任担任牧師の辞任・招聘が決定いたしました。

42年もの間、牧会を行ってきた牧師の後任を探すのは、昨今のクリスチャン人口の減少に伴うキリスト教教職志願者の減少や、全国に無牧の教会が多数存在する現状も鑑み至難の業と思えた中、岸牧師の定年退職の1年前に主任牧師の交代が決まったのは正に奇跡的。そこには神さまの導き、備えがあつたと言わざるを得ません。幸いに麻布南部教会において

も後任の主任牧師の招聘が決まっており、この両教会での主任教職の交代は稀に見る円満な交代劇と言えるのではないのでしょうか。岸牧師ならびにご協力いただきました諸教会、諸団体の先生方のご尽力、ご協力で改めて御礼申し上げます。

さて2024年度に入り、岸俊彦牧師の経堂北教会での牧会の最後の1年となります。長老会では松谷先生へ円滑に引き継ぎができるよう、牧師館の改修も含めてハード、ソフト両面において粛々と準備をしております。月1度関係教職に説教を依頼し、礼拝後に懇談会を計画しています。旧交を温めるとともに、今後の伝道と教会形成の参考となるようこの機会を利用して活発に意見交換したいと思えます。教会員の皆さまの積極的なご参加を無理のない範囲でお願いいたします。年間行事もコロナ禍前の行事をそのまま復活させるのではなく、現状に見合った無理のない形で行っていきたくと考えております。どうぞ皆さまのご協力をよろしく願います。

(大西 順)

牧師の書齋から

経堂北教会最後の受難週、イースターとなりました。前向きにと思うのですが、振り返ることが多くなります。

イースターが3月31日となるのは、2013年以来です。その時は久保哲哉先生の送別の時でした。4月号の「牧師の書齋」を読むと、2月に葬儀が2回ありました。2人で挨拶を兼ねて教会員を訪問していました。一気に集中し

て説教などの準備ができなくなっていて、こまめにこまめに、今のスタイルが始まっています。

昨年5月、コロナが5類となつたこともあり、今回はイースターにかかわる集会が以前のようにすべて行われました。受難週に葬儀がありました。「栄光」の原稿と編集、教会総会資料作成もあり、正直やりきれるかなと思いましたが、申し訳ないのですが、イースター前に訪問をしなかったこと、教団の仕事を離れたこと、教会の規模の縮小と経験で何とか「こま

めにこまめに」で乗り切れました。

牧師館の全面改修工事を秋以降に行います。2001年6月以来暮らした牧師館を出ます。そのため転居先を探していました。主に妻の役割でした。つくば市に何とか落ち着けそうです。すでに住民票は移しました。牧師館改修工事が始まったら仕事はどうなるのか、秋までにしっかりと考えなければなりません。引き継ぎの準備も進めなければなりません。

棕櫚の主日礼拝で、「丘のうえの主の十字架」と歌っていたら、

終わりの始まり、教会は新しく変わっていくのだと思えました。自分自身も御心に従って、新しく踏み出す準備をしなければと思えました。

自分が主任者になったときは、それ以前19年間の担任教師の経験があり、何の引き継ぎもありませんでした。後から、それなりに引き継ぎを受けておくべきだったと後悔しました。今回はそうはいきません。引越しの準備と引き継ぎのため、諸々の整理は想像以上に大変になりそうです。(岸俊彦)

個人消息



掲示板



○復活節第2主日礼拝

4月7日(日) 午前10:15

説教「平和があるように」

ヨハネ 20:19-23 長山 道教授

礼拝後、懇談会

○教会総会

4月28日(日) 礼拝後～午後1:00

編集後記



▽イースターの時期、仕事では年度末・年度始めで忙しく、子どもの進学・卒業があると更に慌ただしく過ごしています。こんな時こそ、心を鎮めて祈りの時を持ちたいです。(酒井)

「栄光」2024年4月号

日本基督教団 経堂北教会

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11

電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038

牧師：岸 俊彦

編集：栄光編集委員会

Email：kyodon@nifty.com

HP：http://kyodokita.life.coocan.jp